第3回「長時間継続する津波に関する情報提供のあり方検討会」議事要旨

1. 日 時

令和6年3月21日（木）10時00分～12時00分

2. 場 所

気象庁7階大会議室1、ウェブ会議

3. 議 題

1. 第2回検討会を踏まえた追加の検討事項について
2. 報告書（案）について

4. 配付資料

資料1 第2回検討会でいただいたご意見と追加の検討事項

資料2-1 長時間継続する津波に関する情報提供のあり方（報告書（概要））（案）

資料2-2 長時間継続する津波に関する情報提供のあり方（報告書）（案）

資料2-3 長時間継続する津波に関する情報提供のあり方（報告書）（図表集）（案）

5. 出席者

委員（◎：座長、○：副座長）

（有識者）

阿部 和彦	仙台市消防局 警防部長
石森 大貴	ゲヒルン株式会社 代表取締役
入江 さやか	松本大学 地域防災科学研究所 教授
◎佐竹 健治	東京大学 地震研究所 教授
駿河 芳典	岩手県復興防災部防災課 防災危機管理監
関谷 直也	東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター 教授
福島 隆史	一般社団法人日本民間放送連盟 災害放送専門部会 幹事 (株式会社TBSテレビ 報道局 解説委員)
保科 泰彦	日本放送協会 報道局 災害・気象センター長
○矢守 克也	京都大学 防災研究所 教授

（関係省庁）

内閣府 政策統括官（防災担当）付

総務省 消防庁 国民保護・防災部 防災課

国土交通省 大臣官房 参事官（運輸安全防災）

国土交通省 水管理・国土保全局 防災課

国土交通省 水管理・国土保全局 海岸室
国土交通省 港湾局 海岸・防災課
海上保安庁 警備救難部 環境防災課
防衛省 統合幕僚監部参事官付

気象庁

尾崎 友亮	総務部 参事官 (気象・地震火山防災)
西潟 政宣	総務部 企画課 防災企画室長
青木 元	地震火山部長
加藤 孝志	地震火山部 管理課長
下山 利浩	地震火山部 管理課 地震情報企画官
鎌谷 紀子	地震火山部 地震津波監視課長
横井 貴子	地震火山部 地震津波監視課 地震津波防災推進室長
束田 進也	地震火山部 地震火山技術・調査課長
林 豊	気象研究所 地震津波研究部 第四研究室長

6. 議事概要

- ・事務局から、第2回検討会を踏まえた追加の検討事項について説明があった(資料1)。
- ・事務局から、報告書(案)について説明があった(資料2)。

これらの議題について意見交換が行われた。委員からの主な意見は以下の通り。

- 津波防災というのは、最初の数十分のことではなく、長いプロセスであるということ。
津波に関する情報は、最初の情報だけが大事なのではなく、必ず最新の情報を入手することが大事であること。一口に津波と言っても、1つのシナリオではなく、異なるいくつかのパターンがあること。この3点を検討会として発信をして、より深く具体的に理解されるようなコミュニケーションを事前にとっておくことが本番での対応に結びつくと思う。
- 津波の高さを数字ではなく津波波形で示したとしても、初期に比べて低くなっている状況では、安心情報として捉えられる懸念もゼロにはならないことから、解説にあたっては十分配慮することが重要。
- 防災機関への情報については、例えばリエゾンを経由するなどして、それぞれの災害対策本部に情報提供されると、現地の活動の安全確保や意思決定の際に役立つものとなる。
- 今回の検討会では、すでに避難している住民が、津波がさらに来ることを軽視して危険な地域に戻るのを防ぐことを第一義に考えているが、例えば、避難所や避難タワーに津波火災が迫る、低体温や持病で健康状態が悪化するといった、避難が長く続くことから生じる問題への対応に関して、もう少し報告書に記載する必要がある。
- 自治体や救助機関向きには、必ずしも安全側を指向したものばかりでなく、バランスの

取れた情報発信が求められる。

- 津波危険区域や津波浸水エリアにおいても、東日本大震災のときは、ヘリコプターによる上空からの海面監視や、隊長による現場での肌感覚を重視した安全管理等に基づく判断により、ヘリコプターや救命ボート等を活用した人命救助活動を行っていた。
- 災害対策本部で解説を受けた場合、市町村や消防にはファクス等で展開するところもあるので、口頭ではなく紙で提供されると展開しやすい。音声では、同時に通報することができず、文字起こしで時間がかかったりする。
- 呼びかけの文章として情報で提供することと、データとして提供することとのすみ分けも、今後の議論の対象になりうる。メディアとしては、データとしては頻繁にいただきたいが、どのように活用するかは別に考えたい。
- 東日本大震災や南海トラフ地震等の、非常に長時間継続して巨大な津波が来るといったイメージが強いように思う。そこまで大規模ではないけれども長時間継続する津波があるということも考慮に入れておく必要がある。

以上